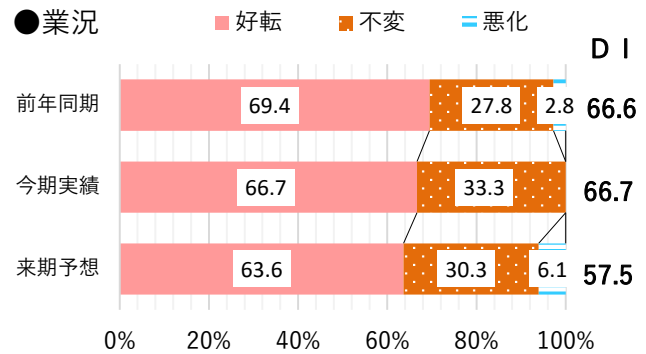


観光業

業況、売上、採算

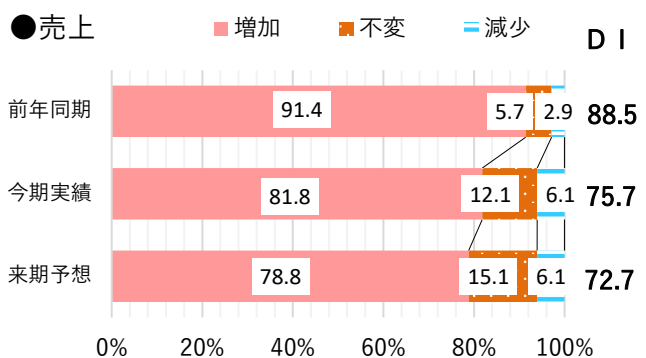
今期（2023.4～6）の業況判断DIは66.7で、前年同期(2022.4～6)と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



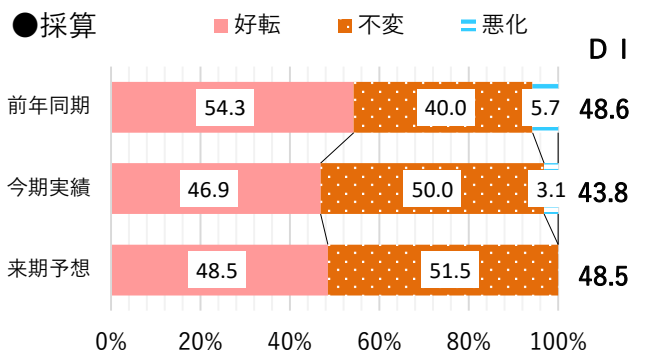
今期の売上DIは75.7で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

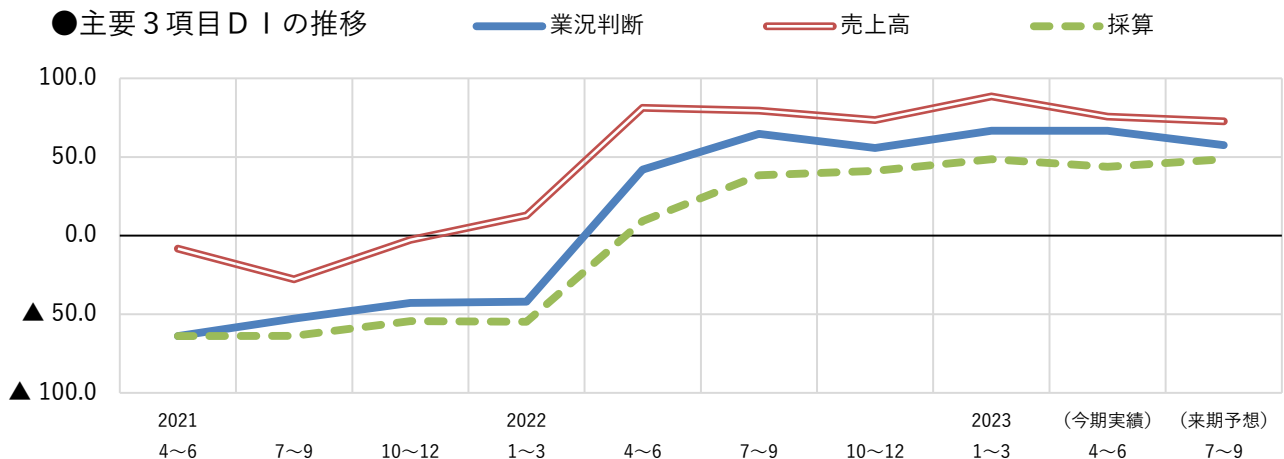


今期の採算DIは43.8で、前年同期と比べ4.8ポイント低下しました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



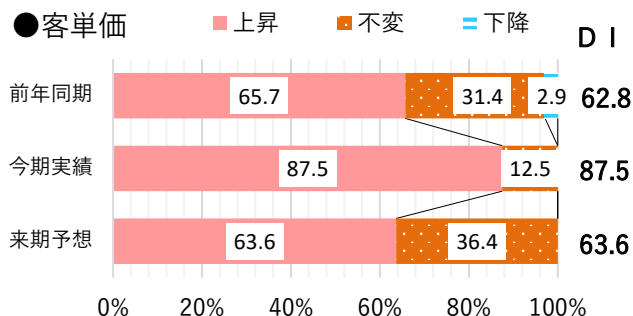
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

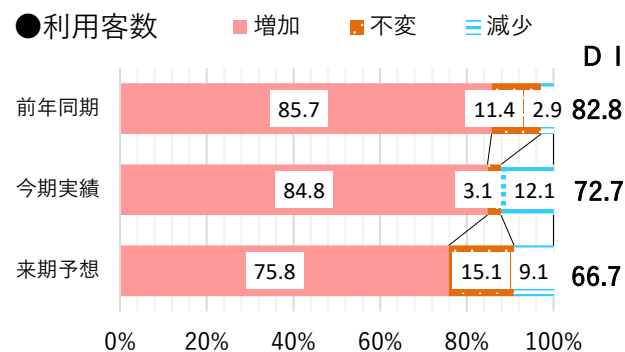
今期の客単価DIは87.5で、前年同期と比べ24.7ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



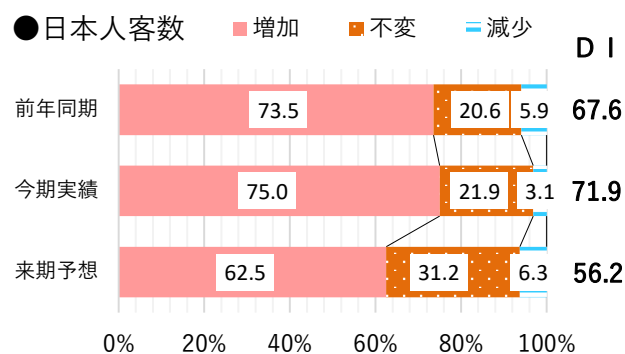
今期の利用客数DIは72.7で、前年同期と比べ10.1ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



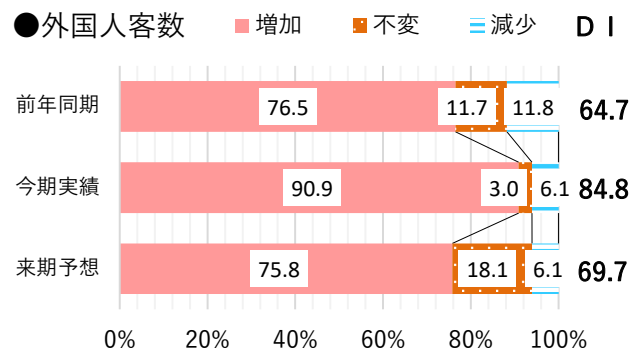
今期の日本人客数DIは71.9で、前年同期と比べ4.3ポイント上昇しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは84.8で、前年同期と比べ20.1ポイント上昇しました。

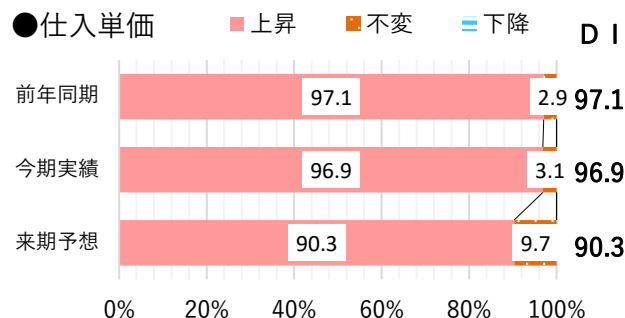
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは96.9で、前年同期と比べ0.2ポイント低下しました。

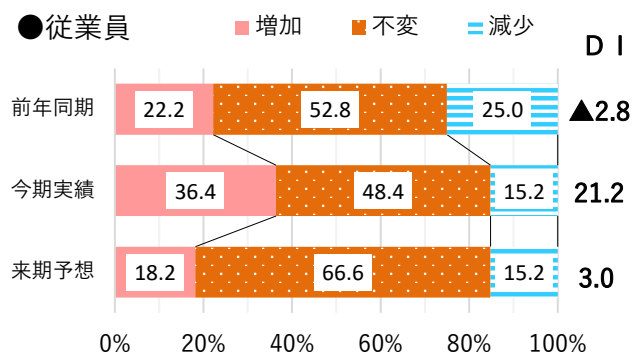
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



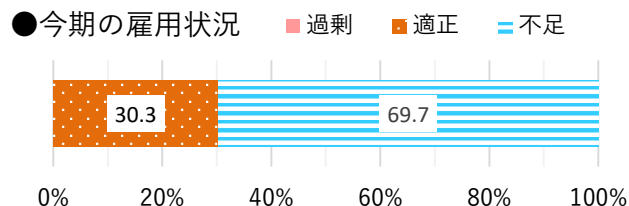
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは21.2で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.3%、不足していると回答した企業の割合は69.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、36.3%を占めました。回答全体では69.7%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	7
不変だった	過剰	0
	適正	4
	不足	12
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

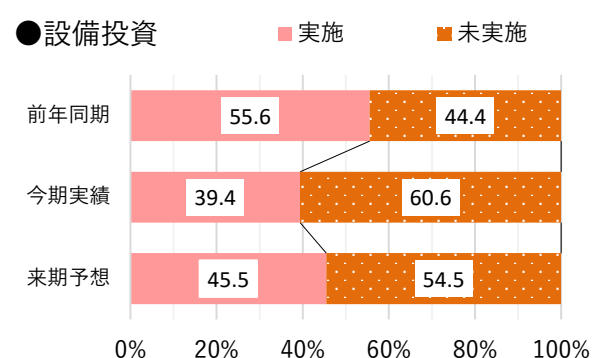
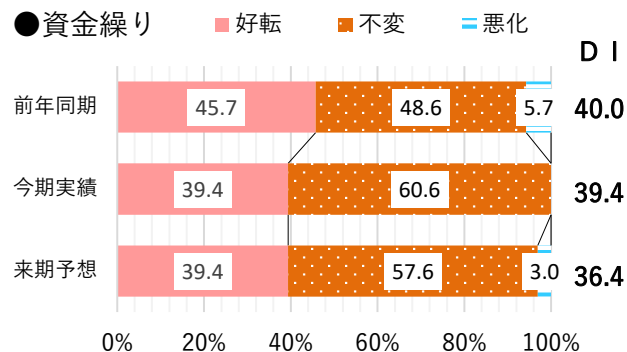
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは39.4で、前年同期と比べ0.6ポイントと低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は39.4%で、前年同期と比べて16.2%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は45.5%で、増加を予想しています。

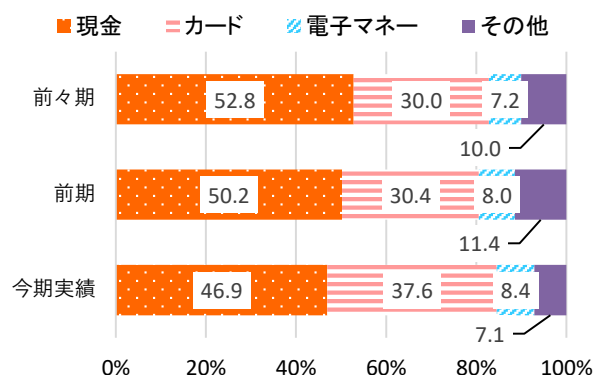


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で46.9%、2位がカードで37.6%、3位が電子マネーで8.4%、4位がその他で7.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、金券、ポイントカードです。

●今期利用客の決済方法(%)

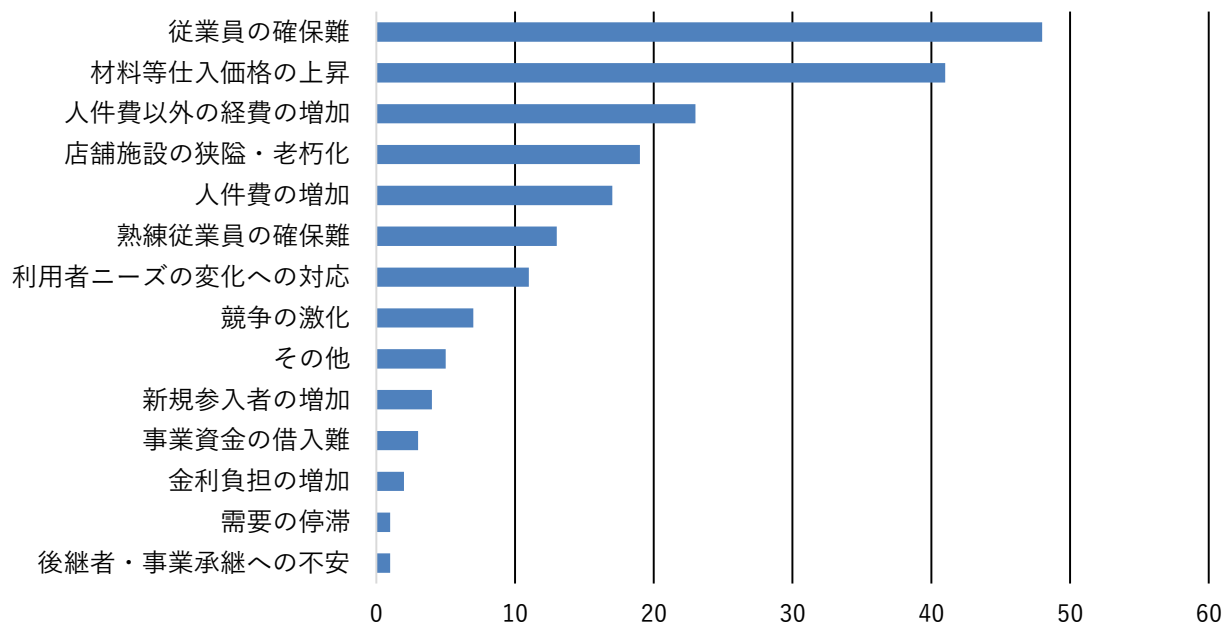


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は57.3%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍を脱したことで旅行需要が増加した。インバウンドの引合い等で売上は好転した。人材はかなり不足している。水道光熱費、仕入等経費は増加した。(ホテル)
- 売上は増加しているが重油や電力の価格高騰、人材確保による人件費の上昇、施設老朽化による修繕費の増加により大幅な好転とまでは言えない状況だ。(ホテル)
- 人材確保が困難なため、受入人数に制限をかけざるを得ない。仕入価格の上昇が課題だ。(ホテル)
- ゴールデンウィークの売上は好転したが、インバウンドが伸び悩んだ。(ホテル)
- インバウンド及び団体客が増加した。客室単価を改善した。(ホテル)
- 旅行支援の恩恵により、国内客とインバウンドが増加した。(ホテル)
- 4～5月で一時休業したため、売上が減少したが、客単価は上昇した。(コテージ・ペンション)
- 客数は増えており、前年同期比の売上は160%程で推移しているが、人材不足のため全ての座席を開放できておらず、販売機会を喪失している。(飲食店)
- 春からインバウンドが回復して助けられているが、日本人ツアー客はなかなか回復しないため、売上は微増だった。(飲食店)
- 客数は増えており、3分の1程度を外国人が占めている。しかし、スタッフが不足しているため、時短営業せざるを得ない状況にある。(飲食店)
- 昨年比で売上は増加し、集客もできているが、従業員を確保できていない。(飲食店)
- 仕入価格の上昇は仕方ないと思う。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの5類移行により、団体バスを利用した国内外の観光客が増加した。外国人は韓国、香港、台湾、ハワイ、シンガポールからの来客が多い。国内の個人客はあまり増えていない(土産品)
- 海外の観光客、修学旅行客、一般のお客様全ての客数がコロナ禍前の水準まで戻っている。(土産品)
- インバウンドの増加により売上は回復したが、仕入価格が上昇し、人材不足が続いている。(土産品)
- 観光業は全体的に回復したが、中国人観光客はまだ回復していない。(土産品)
- 観光客等の増加に伴い売上が増加したが、人手が不足している。(土産品)

- 日本人客が増加した。(土産品)
- インバウンドの増加、客単価の上昇、イベントの再開等により需要が増加した。(レンタカー)
- 国内観光客とインバウンドがともに増加した。(レンタカー)
- 本年3月から入館料金を改定した。対前年比の入館者数は1～3月期で増加となったが、4月以降は減少した。入館料を引き上げた分、辛うじて増収増益を維持できた。(社会教育)
- コロナ禍が落ち着き、人流の回復、インバウンド需要の持ちなおしによる個人消費の増加によって、景況感が上向いている。(船舶貸渡業)
- 昨年同期比で客数が増加し、令和5年4月から料金の値上げを実施したため売上も大幅に増加した。従業員は新たに4名採用した。(水運業)
- 原価等は上昇しているが、利用料金引き上げによって販売額が増加した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- コロナ禍によってインバウンドが減少傾向にあったが、パート従業員を解雇しなかったため、今後の客数増加に問題なく対応でき、売上の増加が見込まれる。(ホテル)
- 客単価は上昇する見込みのため、大幅に稼働を上げるのではなく、変動コストを考慮しつつ稼働率を調整する。人材確保が急務だ。(ホテル)
- 好転を見込むが、各種経費の上昇により大幅な好転は期待できない。(ホテル)
- 予約状況は堅調だが、インバウンドの回復が遅れている。(ホテル)
- 人材不足が続くため、受入人数の制限が続く。(ホテル)
- 主にインバウンドの回復による好転を見込む。(ホテル)
- インバウンド、団体客の増加傾向が続く。(ホテル)
- インバウンドによる売上の増加を見込む。(コテージ・ペンション)
- ある程度人材を確保できたので、客席を常時開放できる状態になれば、売上は増加する。(飲食店)
- 売上、客数ともにさらに伸長すると思われるが、人材確保が課題だ。(飲食店)
- スタッフ不足のため時短営業を続ける。(飲食店)
- 今期同様かそれ以上の業況を見込む。(飲食店)
- 7月から中国本土の観光客増加も見込める。秋の団体バスの予約が多く、売上に期待できる。コロナ融資の返済が始まったため、資金繰りや採算に大きな変化はないだろう。(土産品)
- 物価や仕入単価等は上昇傾向にあるが、観光客も戻ってきているので好転を見込む。(土産品)
- 新千歳ー北京間の航空便が再開されるため、客数の増加に期待する。(土産品)
- 中国人を中心としたインバウンドの増加を見込む。(土産品)
- 国内観光客、インバウンドの客数ともに今期と同程度で推移すると思われる。(レンタカー)
- 客数や需要の回復傾向が続くと思われる。(レンタカー)
- 学校団体の来館者数に復活の兆しがある。ゴールデンウィークの状況を鑑みるに、夏休みの国内旅行増加にも期待できる。(社会教育)
- 人流の回復、インバウンド需要の持ちなおしが続くだろう。(船舶貸渡業)
- 繁忙期にあたるため、乗船客数と売上の増加が見込まれる。(水運業)
- 今期同様、値上げによる販売額の増加を見込む。(娯楽業)